

令和元年度 徳島県立名西高等学校経営計画

1 学校教育目標

- 1 本校の歴史と伝統を重んじ、知・徳・体の調和がとれた、誠実で民主的・創造的な実践力のある心身ともにたくましい人間を育成する。
- 2 生徒一人ひとりの個性や能力を最大限に伸ばすとともに、個人の尊厳と基本的人権を尊重し、民主社会の実現に貢献できる人間を育成する。
- 3 我が国の文化と伝統を尊重するとともに、平和な国際社会づくりに貢献できる人材を育成する。

2 学校経営基本方針

- 1 一人ひとりの個性や能力を伸ばす教育を行い、夢の実現に向けて努力する生徒の育成に努める。
- 2 「文化芸術リーディングハイスクール」による芸術科の活性化と地域に愛される学校づくりに努める。

3 本年度重点目標

- ① 基本的生活習慣の確立を図る生徒指導の充実
- ② 自他を大切に作る心や態度を育成
- ③ 社会的自立のために必要な能力や態度の育成
- ④ 基礎的・基本的な学力の育成
- ⑤ 活力ある部活動と学校をリードする生徒の育成
- ⑥ 地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進
- ⑦ 文化芸術活動における地域への積極的な創造発信
- ⑧ 防災・安全教育の徹底と環境教育の推進

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
			評価指標と活動計画	評価		
基本的 生活習慣の 確立を図る 生徒指導の 充実	①基本的な生活習慣の確立を図る 生徒指導の充実	生徒指導課 各学年	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B (所見) 様々な取り組みの効果もあり、昨年度より遅刻数やスマホに関する特別指導数が減少するなど、一定の成果は得られた。またスマホの指導については、スマホマナーアップ運動を生徒会・PTAと連携して推進するなど独自の取組を実施することができた。しかし、遅刻者数と交通事故の目標を達成することができなかったため、さらに指導方法等の工夫改善を図りたい。	
			① 遅刻者数を10%減少させる。(H30, 818人)	① 毎日の立哨指導や遅刻カードによる指導、また毎朝の声かけ指導など様々な取り組みを実施したが、遅刻者数は12月末までで559名で、昨年度の同時期(602名)よりは減少したが目標は達成できなかった。		
			② スマホマナーアップ運動を充実させ、スマホが原因による特別指導を0にする。(H30, 2件)	② 携帯電話安全教室など様々な取組の効果もあり、スマホが原因となる特別指導はなかった。		
		③ 交通事故防止と交通マナー向上の指導を徹底させ、登下校における交通事故を2件以内にする。(H30, 1件)	③ 登下校中の接触事故は4件あり、目標を達成できなかった。しかし、命に関わるような事故はなく、ほとんどが軽傷の事故であった。			
		生徒指導課 各学年	活動計画	活動計画の実施状況		
			① 「遅刻ゼロの日」や「考査時の5分前登校」の取組を充実させる。また、遅刻カードで遅刻数や理由を確認し、個別に指導する。声かけ指導も毎朝実施する。	① 生徒に遅刻カードを記入させ、捺印の際に遅刻数や理由を確認し、個に応じた指導を実施した。また、遅刻ゼロの日の前日には、生活委員が校門前で呼びかけるなどの取組や考査時は5分前登校も実施した。毎朝、声かけ指導もおこなった。		
② クリアファイルの配布やポスター掲示など啓発に努める。また、生徒会やPTAと連携を図る。	② クリアファイルの配布やポスター掲示をして、スマホマナーアップ運動の浸透に努めた。また、生徒会やPTAも総会で宣言を発表し、運動の推進が図れた。					
③ 登校時の立哨指導(毎日)、街頭指導(月1回)、交通安全街頭キャンペーン(年2回)、車体検査と通学別集会(年3回)、交通委員会による挨拶運動(月1回)を実施する。	③ 石井署と連携を図り、交通安全街頭キャンペーン(無事カエル配布)などを実施した。また登校時の街頭指導は毎日実施し、毎月の学校安全の日にも通学指導を実施した。3年生に対しては自動車免許取得説明会も開催した。					

重点課題	重点目標	主担当	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
			評価指標と活動計画	評価	総合評価		
自他を大切に する心や態度を 育成	②自他を大切に する心や態度を 育成	人権教育課	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	生徒が落ち着いており、生徒の実態に即した丁寧な指導で、多くの生徒が充実した学校生活を送っているようである。生徒の悩みや問題行動も、迅速な対応で早期解決を図り、問題の深刻化を防止している。また「名高入権の日」を設けるなど、生徒の人権意識の向上に、真摯な取り組みができています。	○2年間にわたって実施してきた県教委人権教育指定研究の成果を、次年度以降も継続して取組を推進するとともに、さらなる人権教育実践につとめていきたい。また、生徒自主活動のさらなる持続的かつ普遍的活動のため、人権教室を活用するとともに、人権研究会を同好会から部への昇格を求めている。
			① いじめ問題や人権に関する課題について教職員間で共通認識を持つ。	① 校内教職員人権教育研修会や職員会議を通して、共に考えることで共通認識を持つことができた。	(評定) A		
			② 生徒による人権意識を高める活動を推進する。	② 「名高入権の日」校内放送や人権標語のクラス掲示、生徒会人権委員会活動を通じて推進できた。	(所見) 教育活動全体を通じて人権尊重の精神の涵養につとめ、本校の生徒の実態に応じた指導の充実を図ることができた。昨年度より県教委から人権教育指定研究を受け、その研究主題に沿って、人権HR活動研究・公開授業の実施や教職員研修会の開催等の各種取組を実践することができた。		
		③ 3年生対象の「人権に関する意識調査」において、人権課題に取り組む意欲を示す回答を9割以上にする。(H30年:89%, H29年:92%)	③ 「意欲的に取り組んだ」、「ある程度取り組んだ」を合わせて95%の回答を得ることができ、昨年度より意欲的に取り組めた人が増加し、ここ数年の中で最高値				
		活動計画	活動計画の実施状況				
		① 各学年で人権HR活動検討会や人権教育研修会を計画・実施するほか、校外の各種研究・研修会に参加し機会を捉えてその報告を行う。	① 人権HR活動の事前検討会を各学年で必ず実施し、校内教職員人権教育研修会は3回実施した。校外研修報告は職員会議でその都度行った。				
	② 生徒会人権委員会による人権に関する取組を活発に行う。	② 文化祭人権展の実施、「名高入権の日」校内放送、人権新聞発行等を通して人権啓発に取り組んだ。					
	③ 多様性や人権を尊重し、いじめ・差別を許さない生徒の意識や態度を育てる人権HR活動や人権映画鑑賞会・講演会等を行う。	③ 人権HR活動を年5回実施した。第4回は高特人研大会を本校で開催し、来校者に全クラスでの公開授業を実施することで、いじめや差別を許さない人権意識を					
	生徒指導課 教育相談		生徒指導課 教育相談	評価指標	評価指標の達成度		
④ 学校いじめ防止方針に基づき未然防止に努め、いじめによる特別指導を0にする。(H30, 1件)				④ いじめ防止指導を徹底し、いじめによる特別指導はなかった。	(評定) A		
⑤ 生徒理解に努め、必要に応じた職員研修やケース会議が実施する。				⑤ 生徒の実態調査を基に、情報共有のための職員研修を行った。また、必要に応じて、教科担任会などのケース会を行った。	(所見) いじめ防止の取組を徹底し、深刻ないじめ問題が発生することはなかった。また教育相談では、ケースに応じた各種会議を実施し、生徒理解やその対応について共通理解に努め、適切な対応ができた。		
生徒指導課 教育相談		生徒指導課 教育相談	活動計画	活動計画の実施状況			
			④ アンケートを年2回実施し、早期発見に努める。また、いじめは絶対に許さないという姿勢を全校集会等で明確にし、生徒が相談しやすい環境をつくる。	④ 本校の実態にあった年間計画を作成し、アンケート調査(年2回)や個別面談などの取組を行うことで生徒の悩みや対人関係の状況を把握し、未然防止に努めた。			
			⑤ 特別支援教育の視点で、生徒実態調査を、年1回行い、その結果を教職員研修会で情報共有する。支援が必要な生徒については、年間2回以上ケース会を行う。	⑤ 生徒実態調査を11月に行い、12月に情報共有のために職員研修を行った。支援が必要な生徒についての保護者面談、教科担任会など2回以上行うことができた。			

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
			評価指標と活動計画	評価		
自他を大切に する心や態度を 育成	②自他を大切に する心や態度を 育成	保健厚生課	評価指標 ⑥ 生徒の心身の健康問題について、担任・保護者や必要に応じて専門の相談機関等と連携し健康相談活動を行う。(H30, 7件) ⑦ 毎学期1回以上学校医による健康相談を実施し、生徒の健康の保持増進に努める。(H30, 2回実施)	評価指標の達成度 ⑥ 心身の健康問題を抱えている生徒に対して継続的支援を行った。(R1, 5件) スクールカウンセラー派遣支援事業活用。(R1, 3件) ⑦ 生徒の心身の健康問題について専門的立場から助言を得る機会を設けた。(R1, 4件)	総合評価 (評定) B (所見) スクールカウンセラー派遣支援事業を希望する生徒は昨年度1件に対し、今年度は3件と増加しており、今後も事業の必要性を感じている。	心身の健康問題や家庭での問題に対しても丁寧な対応ができています。次年度も、関係機関と連携を図りながら生徒の健康の保持増進に努めてほしい。
		保健厚生課	活動計画 ⑥ 保健室の機能を生かしながら担任、保護者と連携を図る。必要な場合はサポートセンター等専門の相談機関につなげる。 ⑦ 希望者または必要とする生徒に対して学校医による健康相談を実施する。	活動計画の実施状況 ⑥ 担任、保護者、関係職員が相互に情報交換をとれるように連携に努めた。また、スクールカウンセラー派遣事業の申込、実施を行った。 ⑦ 心身の不調を継続的に抱えている生徒、または担任や保護者が専門的な立場からの助言が必要と判断した生徒に対して健康相談を計画、実施した。		
	②自他を大切に する心や態度を 育成	保健厚生課	評価指標 ⑧ 内科検診、結核検診、心電図検査の全員受診、二次検査対象者の全員受診を完了する。(H30 二次検査, 内科, 結核, 心電図全員完了) ⑨ ほげんだよりを毎月発行する。(H30, 毎月発行) 健康や性に関する講演会を年1回以上実施する。(H30, 1回実施)	評価指標の達成度 ⑧ 内科検診、結核検診、心電図検査の全員受診、二次検査対象者の全員受診を完了することができた。 ⑨ 生徒保健委員会が保健だよりを毎月発行した。学校医を講師として迎え、性教育講演会の開催を二学期に1回開催することができた。	総合評価 (評定) A (所見) 二次検診の受診対象者に通知を行い、未提出者については担任や保護者と連絡を取り合うことで全員の内科、心電図検査の二次検診を完了することができた。	健康診断未受診者や二次検査が必要な生徒に対する指導も個別に行うなど、今後も丁寧な指導を継続していただきたい。
		保健厚生課	活動計画 ⑧ 健康診断の結果、未受診者や二次検査が必要な生徒に対して受診指示を周知徹底する。 ⑨ ほげんだよりを通して健康への関心を高める。定期的に健康や性に関する講演会を実施する。	活動計画の実施状況 ⑧ 未受診者や二次検査が必要な生徒に対して個別指導をとって受診の必要性を説明した。 ⑨ 生徒保健委員会が毎月の健康テーマについて情報を収集し、作成するよう計画、実施をした。性教育講演会では「若者に広がる性感染症」をテーマに計画、実施した		

③

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見
			評価指標	評価指標の達成度	総合評価	
	② 自他を大切に する心や態度を 育成	特別活動課	⑩ 「あいさつ運動」を毎週2回以上実施する。	⑩ 「あいさつ運動」週2回実施できた。	(評定) A	生徒を中心とした「あいさつ運動」が定着していることは素晴らしいことなので、次年度も学校として継続していただくことを期待する。
		特別活動課	⑩ 生徒会役員が中心となり、登校時に「あいさつ運動」を実施する。	⑩ 生徒会役員が火・金曜日の登校時に校門前で朝の「あいさつ運動」を実施した。また、生活委員会や交通委員会が月2回「あいさつ運動」を実施した。		

重点課題	重点目標	主担当	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
			評価指標と活動計画	評価	総合評価		
社会的自立のために必要な能力や態度の育成	③社会的自立のために必要な能力や態度の育成	総合学習科	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	「エシカル消費」に対する取り組みは、他校の模範となると考えられる。このような機会を通して、企画力やコミュニケーション能力をつけることを期待する。生徒の進路意識を高めることにつなげ、学校生活に主体的に取り組む生徒を育成してほしい。	○1学年を中心にエシカル消費に関する基礎を学んだが、生徒が関心を持った話題についてさらに考えを深めたり予想したりするなど、思考を促す指導を検討する必要がある。 ○生徒の学びを有機的に結びつけ深められるよう、講演会の内容や実施時期、回数、使用する教材等について見直し、生徒のキャリア形成に役立てることのできる指導計画にしていきたい。
			① 進路意識を高める行事や講演会等に主体的に参加する生徒の割合を80%以上とすることを達成する。(H30:78.2%)	① 学校評価アンケートで、進路意識を高める行事や講演会等に対して、主体的に参加した生徒の割合は、83.9%であった。	(評定) A		
		② 各学年での志望理由書に関する取り組みに対して、アンケートによる生徒の満足度を83%以上とすることを旨とする。(H30:83.3%)	② 志望理由書の取り組みに対する生徒の満足度は 学年によって79.8%から92.5%と幅があったが、平均して85.9%と目標を達成できた。	(所見) 進路意識を高める行事や講演会等を通して、生徒がこれからの学習活動や、ものの見方、考え方について考える機会となった。個人差は大きいですが、取り組みから受けた刺激が、その後の進路に対する主体的な姿勢や、取り組みに対する満足度につながった。			
		活動計画	活動計画の実施状況				
		① 総合的な学習の時間の計画において、生徒の実態に応じて進路意識を高める行事や講演会等の内容の改善を図り、生徒が主体的に参加することができるようにする。	① 1学年においては「エシカル消費」に精通した外部講師を9回招き、疑問に思ったことや調べてわかったことなどをまとめた。身近な問題について関心を持ち、追究する意義について意識づけを行うことができた。				
		② 志望理由書に関する取り組みを2,3学年の年間計画に位置づける。各ホームルームでの事前指導を経て、志望理由書模試を実施し、事後指導の後、アンケートで生徒の満足度を確認する。2・3年生では、事前指導の中で講演会も実施する。	② 学年担当やホームルーム担任を中心として、生徒の実態に応じた事前指導、志望理由書模試の実施、添削をもとにした事後指導を計画的に行った。講演会では、学年団の意見をもとに、内容について講師とのやりとりを重ね、生徒の実態に応じたものになるよう努めた。				
	進路指導課	評価指標	評価指標の達成度	総合評価			
		③ 生徒に進路情報を随時提供することができたか。	③ 進学希望、就職希望の両方に対応できるように、取捨選択しながら様々な情報の掲示や伝達を随時行った。	(評定) A			
	進路指導課	活動計画	活動計画の実施状況				
		④ 最終進路先に満足する生徒の割合が90%以上、本校の進路指導に満足する生徒の割合が90%以上であったか。(H30:95%,90%)	④ 最終進路先に満足する生徒の割合が92%、進路指導に満足する生徒の割合は91%で、いずれも目標を達成した。	(所見) 情報の提供については配布時期や配布対象など計画通りに行えた。アンケート結果は目標が達成できた。			
	進路指導課	③ 生徒に進路情報を随時提供する。(「木鐸」年1回、職場体験やオープンキャンパス等各種案内随時)	③ 進路の手引き「木鐸」や進路ニュースの発行を通して本校独自の情報を伝えた。また、掲示や配布により様々な進路情報を提供した。				
		④ 生徒の進路相談に随時応じ、丁寧な進路指導を行う。	④ 進路指導室や就職指導室を活用して、できるだけじっくり話を聞きながら進路相談に応じた。				
3学年共通	評価指標	評価指標の達成度	総合評価				
	⑤ 生徒と担任、学年団との面談を実施し、個別指導ができたか。	⑤ 1,2年担任はコース選択や進路目標設定などについて、熱心に面談した。3年担任は進路実現に向けた面接・小論指導などきめ細かい個別指導を行った。	(評定) A				
3学年共通	活動計画	活動計画の実施状況					
	⑥ 進路に関する講演会や学年集会を通して学力向上への意欲や、望ましい職業観の確立を図ることができたか。	⑥ 1月に実施した進路希望調査において、進路が未定の生徒は1,2年生とも0人であった。講演会や進路集会などを通してそれぞれの目標設定がある程度できていると考えられる。	(所見) コース選択説明会や小論文・志望理由書講演会において、生徒が自身の目標や課題について考えを深めた。1年は探究での講演の話が興味関心を広げることにつながったようである。				
3学年共通	⑤ 全生徒と各学期に1回以上進路や学習、生活面についての面談をする。	⑤ 各学期の始めやコース選択、進路希望調査のタイミングで昼休みや放課後を利用して個別面談を行った。					
	⑥ 講演会や学年集会を各学年3回以上開催する。(H30:1年生10回,2年生5回,3年生7回)	⑥ 年度当初と長期休業前、進路については各学年で集会を行った。その他、1年生は探究に向けた講演会や保健指導、2年生は修学旅行、3年生は奨学金や年金についても実施した。(R1:1年14回,2年10回,3年10回)					

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
			評価指標と活動計画	評価			
基礎学力の向上を目指す	④基礎的・基本的な学力の育成	進路指導課	評価指標	① 定期考査期間中の平均家庭学習時間2時間以上の者が30%以上、かつゼロ時間の者がゼロであるようにする。(H30:2時間以上の者の割合は40%、ゼロ時間の者の割合は1%)	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B (所見) 全体的に落ち着いた雰囲気の中で授業が実施できている。各担任及び教科担任の指導・働きかけ等により、授業や学習に対する生徒の取り組みも改善しつつある。定期考査前の学習時間表の配付や、長期休業中に実施している欠点取得者対象の基礎学力補充講座も生徒の基礎力の養成につながっている。	
			教務課	② 成績不振数の割合を、前年度1・2学期と比較して、減少させる。(H30:1学期は前年比較で半減。2学期は前年比較で10人減。)	② 欠点取得者について、1学期は前年度より4名増加したが、2学期は前年度より7名減少した。		
		③ 成績不振者に対して、休業中に基礎学力補充講座を行う。出席率を100%にする。(H30:出席率は91%)	③ 基礎学力補充講座の欠落者は1・2学期とも2名(出席率は1学期85.7%、2学期87.5%)であった。				
		④ 授業時数確保に努め、出張・年休の授業振り替え率を90%以上にする。(H30:1・2学期で92%)	④ 出張・年休等の早めの連絡徹底及び授業変更作業の努力により、振り替え率は97.9%であった。				
		進路指導課	活動計画	① 学習時間調査を実施し、生徒に対する意識づけを行い家庭学習時間ゼロをなくす。	活動計画の実施状況		① 考査時間割発表から学習時間調査を実施し、計画的に学習ができるように学習時間表を配布し、担任の先生方にチェックと状況把握をしていただいた。
		教務課	② 授業やホームルーム、集会等で学習意欲を喚起させるとともに、授業態度や提出物等の指導を徹底する。	② 普段から各ホームルーム担任や教科担任によるきめ細やかな指導を行うとともに、全校集会や学年集会等の際に進路や教務担当教員、学年主任からも授業の大切さや学ぶことの重要性等について話をした。			
		③ 夏季及び冬季の長期休業中に基礎学力補充講座をそれぞれ3日間実施し、学力の補充に努めさせる。	③ 今年度から基礎学力補充講座の実施方法の改善を行い、教科担任主導で欠点取得者対象に実施した。夏季休業中の実施に一定の効果があり、2学期の欠点取得者が前年度と比較して7名減になったことにつながったと思われる。				
		④ 行事などの精選を図るとともに、自習を減らし、授業振り替えをする。	④ 先生方の出張・年休の連絡を早めにしていただき、授業の振り替えに努めた。				

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方針		
			評価指標と活動計画	評価				
基礎学力の向上を目指す	④基礎的・基本的な学力の育成	国語科	<p>評価指標</p> <p>⑤ 漢字・語彙テストや古文単語テストの平均得点率7割以上の者を85%以上にする。(H30: 82%)</p> <p>⑥ 授業評価アンケートの「教科に関する興味・関心」「充実度」がある生徒の割合95%以上を目指す。(H30: 92%)</p> <p>⑦ 授業評価アンケートの「宿題をしている」生徒の割合を87%以上にする。(H30: 85%)</p>	<p>評価</p> <p>⑦ テストの平均得点率7割以上の者は、80%であった。目標を達成できなかった。</p> <p>⑧ 「教科に関する興味・関心」と「充実度がある」生徒の割合は概ね95%を超えていた。</p> <p>⑨ 「宿題をしている」生徒の割合は80%であった。目標を達成できなかった。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>(所見) 漢字や語彙の小テストの得点率が知識の定着に比例しているとは限らない。定着させるためには、小テストと文章の読解の両輪で行う必要がある。教員が生徒に繰り返し授業の中で語彙の意味を呼びかけ、語りかけることと、生徒同士が協働することをバランスよく実施していきたい。家庭学習の習慣がついている者とそうで</p>	<p>授業の中にグループ学習やペア学習、ホワイトボード、ICT機器を取り入れるなど、生徒が主体的に学習活動に取り組めるような環境が整っている。より多くの教員が、生徒の考えを引き出させるような授業を展開できることを期待する。</p>		
		国語科	<p>活動計画</p> <p>⑤ 漢字テキストを家庭学習させて週に1回確認テストを実施する。2, 3年生は古文単語テストも実施し、合格しなかった者には繰り返し取り組ませる。</p> <p>⑥ 協働学習や発表により達成感や充実感を味わわせる。便覧・資料等を活用してより深く興味・関心を引き起こし、積極的な授業参加ができるよう配慮していく。</p> <p>⑦ 授業の内容にあったプリントや週末課題を配付し、家庭学習の習慣を身につけさせる。プリントや週末課題はファイルし、提出させて評価する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>⑦ 計画通り実施できた。全10回のテストが終わると、漢字検定2級レベルの回をもう一度繰り返しテストを実施した。定期テストの範囲にいて、継続的に取り組んだ。</p> <p>⑧ 音読や内容理解のテストを実施した単元では、互いに教え合ったり、質問するなど協働する場面が多く見られた。古典では視聴覚教材を利用し、興味関心を引き起こすように取り組んだ。</p> <p>⑨ 板書をする時間と、授業を聞いて思考する時間をバランスよくとるために授業プリントの準備をした。新聞コラムの週末課題の提出も評価の中に取り入れた。家庭学習の習慣が身につくように継続していきたい。</p>				
		地歴・公民科	<p>評価指標</p> <p>⑧ 授業評価の「興味・関心」「充実度」で、8割以上の生徒が満足することで、基礎的・基本的な学力の育成をはかる。(H30: 85%)</p> <p>⑨ 基礎的・基本的な学力を身につけさせるために、定期的にノート、プリント等を提出させる。提出率を100%にする。(H30: 100%)</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>⑧ 「興味・関心」「充実度」について、84%の生徒が満足していた。</p> <p>⑨ 定期テストごとのノート・プリント提出を定着させ、提出率100%を達成した。</p>			<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>授業の内容に即した時事問題を取り上げること、世の中の出來事に対する生徒の興味・関心を高めることができた。また、それらを取り上げる際、主権者意識が高まるよう取り組んだ。</p>	<p>○授業内容を深め、興味・関心を高められるよう時事問題や多くのエピソードを紹介したが、授業の進捗が遅くなることもあった。これらを精選し、映像資料や新聞記事印刷など工夫し、さらに関心度を高められるようにする。</p>
		地歴・公民科	<p>活動計画</p> <p>⑧ 毎時間一つは時事問題を取り入れ、授業内容と絡めて説明することにより、授業が世の中の出來事・動きと関連していることに気づかせ、興味・関心を持たせる。</p> <p>⑨ 基礎基本の定着をはかるため、定期テストごとにノートを提出させ、未提出の者には提出を促す。ノートを効率よくとれるよう板書計画を吟味する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>⑧ 毎時間、授業内容に即した時事問題を取り上げ、ポイントを解説した。また、世界史・日本史の出來事との関連性を気づかせることができた。</p> <p>⑨ 授業内容に即した地図や資料をプロジェクターで投影するなどし、関心や理解度が高まるよう工夫した。その結果、ほとんどの科目で平均点が60点以上となった。</p>				

重点課題		重点目標	自己評価		学校関係者評価	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
基礎学力の向上を目指す	④基礎的・基本的な学力の育成	数学科	評価指標	評価	総合評価 (評定) B (所見) 自主勉強プリントは、よく提出する生徒としない生徒が途中から固定されてきた。できるという体験を増やすことによって、興味・関心も向上することにつながる。自主勉強とはいえ全員に提出を呼びかけていきたい。	生徒が自ら学ぶという姿勢が定着し、生徒同士の学習に対する意欲も向上しているようだ。しかし、今後も学習習慣のない生徒に対するサポートや指導も継続してほしい。	本校数学科が独自に行っているプリントによる協働学習を継続させ、「生徒がわかる授業」をもっと作っていききたい。プリントの中身、特に定義や用語を書き込む部分は改訂する必要がある。また、理解度の差が大い芸術科での授業展開は工夫が必要である。
			⑩ 1年生普通科を対象として自主勉強プリントを配布し、その提出率を80%以上にする。(今年度から開始)	⑩ 提出率は72%で目標を下回った。			
		⑪ 授業評価アンケートで数学の授業に興味・関心を持った生徒の割合を80%以上にする。(H30:1年生70%,2年生72%)	⑪ 興味・関心を持った生徒の割合は生徒全員が履修する1年生数学Iにおいて82%で目標を上回った。全体的に授業には真面目に取り組んでおり、授業への意識を高めることはできた。				
		活動計画	活動計画の実施状況				
		⑩ 週に1,2度配布する。自主勉強用なので提出を義務づけないが、自主的に提出することにより自分が積極的に学習に取り組んでいる意識を作るとともに、基礎学力の向上につなげる。	⑩ ほぼ毎週、主に定期考査が近づいてから生徒に提出を促しながら配布した。				
		⑪ 毎時の目標を明確に示すとともに発問を多くしたり、協働学習を取り入れるなど、全員が授業に積極的に取り組んでいる態勢をつくる。	⑪ 協働学習を効果的に取り入れることで意欲や関心が高まるように心がけた。生徒の実態に応じて教授内容を精選した。				
	理科	理科	評価指標	評価	総合評価 (評定) B (所見) 家庭学習習慣のない生徒、ノートをとらない生徒が増加している中、科学分野にどのように興味を持ち、学習につなげるかが課題である。気象災害や環境問題、病気などの問題については関心がないわけではないので、教科の内容に即したプリントを作成し、より興味関心が持てるようにする工夫が必要である。	年度当初に学習の基礎基本について丁寧の説明し、ノートの取り方やテストに向かう姿勢などについて徹底する必要がある。また、欠点所得者については教科間の連絡や面接を行い、学習する姿勢や学習習慣の確立の手助けを行いたい。	
			⑫ ノート、プリント、課題、テスト直し等の提出・確認を細かく行い、その提出率を95%以上にする。(H30:98%)	⑫ 期間内に提出することを重点的に指導し、90%以上の提出率になった。最終的には全ての生徒の提出ができた。			
			⑬ 社会で取り上げられる理科関連のニュースを授業で取り上げることで、学習内容が現実社会と密接に関連していることを理解させ、学習意欲の向上に繋げる。	⑬ 気候変動やマイクロプラスチック、遺伝子治療など将来的な科学的課題について取り上げ、生活と関連付く科学についての学習意欲が向上する生徒が見られた。			
		⑭ 生徒がやる気を持って試験に臨み、満足できる得点がとれるためのサポートを、必要に応じて考査前に行う。また、年度末の欠点取得者をゼロにする。(H30:2%)	⑭ テスト範囲の早期連絡や、自主的に残り学習する生徒や部活動での学習会での指導などを行うことで年度末における欠点所得者は2%程度になった。				
		活動計画	活動計画の実施状況				
		⑫ 一般用語、一般常識の理解定着を目指すためのきめ細かい指導と解説を行う。必要であれば小テストを行い定着率を確認する。ノートを効率よくとれるよう板書計画を吟味し、生徒のノートの定期的な提出と確認を行う。また、検印するなど後から確認できるようにする。	⑫ 課題やノートの提出、検印をこまめに行い、家庭での学習時間確保と学習習慣の定着はある程度できたと考える。ノートをとる習慣や提出物を守れない生徒が増えており、丁寧な指導が必要であった。継続的な指導を行うことにより提出期限内での提出が90%以上になった。				
理科	⑬ ニュース・新聞等の記事から授業内容に即する内容でプリント等を作成する。記事中の単語、内容の解説を行い、基礎的な科学的知識の習得に努める。月2回程度の取り組みを目指す。	⑬ 新聞やネット記事を積極的に活用し、目標回数は行っている。教科書と新聞記事の内容の間を丁寧に説明し、学習内容が将来の生活に役立つ事について理解させることができた。					
	⑭ 生徒が試験勉強に取り組みやすいよう、出題範囲と出題傾向を適切に伝え、効率良い勉強方法を伝授するとともに、学習努力が得点に繋がる出題を心掛ける。また、必要に応じてテスト前に補習等も行う。	⑭ 大切な内容については小テストを実施するなど、学習内容の重点目標をしっかりと理解させることができた。学習習慣のない生徒へのさらなる取り組みが今後の課題である。					

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
			評価指標と活動計画	評価		
基礎学力の向上を目指す	④基礎的・基本的な学力の育成	英語科	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B	生徒が自分の考えを整理して他の人に伝えるというような生徒主体の活動を、積極的に取り入れた工夫がされている。今後も継続し、魅力ある授業を展開してほしい。
			⑮ 1年生の各学期末で80点以上(評定5)の生徒を30人以上にする。	⑮ 全クラス実施のコミュニケーション英語で、80点以上の生徒は、1学期32名、2学期24名で、目標を達成できなかった。		
			⑯ 2年生の各学期末で80点以上(評定5)の生徒を30人以上にする。 (H30: 1学期30名, 2学期29名)	⑯ 全クラス実施のコミュニケーション英語で、80点以上の生徒は、1学期47名、2学期28名で、目標を達成できなかった。		
		⑰ 3年生の1, 2学期末で80点以上(評定5)の生徒を40人以上にする。 (H30: 1学期53名, 2学期45名)	⑰ 全クラス実施のコミュニケーション英語で、80点以上の生徒は、1学期79名、2学期62名で、目標を達成できた。			
		英語科	活動計画	活動計画の実施状況	生徒が自分の考えを整理して他の人に伝えるというような生徒主体の活動を、積極的に取り入れた工夫がされている。今後も継続し、魅力ある授業を展開してほしい。	
			⑮ ・授業でポイントをよく理解させる。 ・繰り返し暗唱・復習することを奨励する。 ・小テストの結果を集計・追跡し、評価の一部に加味するとともに個人の指導に生かす。 ・「English for Tomorrow」(中学校復習教材)を週末課題とし、計画的に取り組ませる。また、自主学習を促す。	⑮ 「English for Tomorrow」を週末課題とし、年間を通して計画的に取り組ませた。また、小テストや課題テストの範囲とすることで、目的を持って取り組むことができた。結果は評価の一部に加味し、成績不振の生徒は個人指導を行った。ペアやグループ活動など、生徒同士で学び合う活動も積極的に取り入れた。		
⑯ ・授業でポイントをよく理解させる。 ・単語テストを実施し、語彙力をつける。 ・テスト対策プリントで、考査前にポイントを復習させる。	⑯ 各パートごとに重要ポイントや重要語句の整理をした上で、ペアで繰り返しチェックを行うなどの取り組みを行った。考査前にはテスト対策プリントで学習のポイントを復習した。習熟度の高いクラスではリスニングや速読など大学入試を意識した活動も取り入れた。					
⑰ ・授業でポイントをよく理解させる。 ・繰り返し暗唱・復習することを奨励する。 ・小テストの結果を集計・追跡し、評価の一部に加味するとともに個人の指導に生かす。	⑰ 3年生の授業では、重要なポイントの解説や単語・熟語の小テストなど、基礎・基本の充実を図り、結果は評価の一部に加味した。ペアやグループ活動など、生徒同士で学び合う活動も積極的に取り入れた。					

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
			評価指標と活動計画	評価		
基礎学力の向上を目指す	④基礎的・基本的な学力の育成	図書課	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B (所見) 図書館の利用者が減少しているが、その要因としては、昨年度までは教員の利用も含めていたが、本年度は生徒のみの数となっていること、授業での利用が少なかったことなどが挙げられる。 一方、貸出冊数は、生徒数が減少しているにもかかわらず一日当たり2.2冊増加した。図書購入費の特別配当があり、生徒からのリクエスト本を多く購入できたことや、出張図書館の利用が定着してきたことが、貸出し冊数の増加に繋がったのではないかと思われる。	
			⑱ 全校読書会や読み聞かせの会の参加者は昨年度より増やす。(H30:参加者平均26名)	⑱ 全校読書会(ビブリオバトル)の参加者は28名、読み聞かせの会の参加者は25名であった。(参加者平均26名)		
			⑲ 家庭での平均読書時間10分以上の者を昨年度より増やす。(H30:45%)	⑲ 家庭での平均読書時間10分以上の生徒は、45.5%であった。		
			⑳ 図書館の利用人数を昨年度より増やす。(H30:1日平均利用者数22.7人)	⑳ 図書館の利用者数は昨年度より減少した。(1日平均利用者数17.1人)		
			㉑ 図書館の本の貸出を昨年度より増やす。(H30:1日平均貸出数5.5冊)	㉑ 図書館の本の一日平均貸出数は7.7冊で、昨年度より増加した。		
		図書課 国語科	⑳ 読書感想文や各種コンクールの出品数や入賞者を昨年度より増やす。(H30:各種コンクール入賞者6名)	㉒ 読書感想文コンクールの入賞者は6名であり、昨年と同数であった。		
			活動計画	活動計画の実施状況		
		図書課	⑱ 全校読書会や読み聞かせの会の実施案内を教室に掲示し、積極的な参加を促す。参加した生徒が次回も参加したいと思えるような企画にする。	⑱ 案内ポスターの教室掲示や図書委員からの声かけを行った。読み聞かせの会では3年生の補習と重なり参加者の減少が懸念されたが、図書委員以外の参加者を増やすことができた。		
			⑲ 学級文庫の充実を図り「朝の読書」の取り組みを十分に生かすことで、家庭での読書時間を増やしていく。 図書室前の掲示板でおすすめ本を紹介し、図書館の本をテーマ別に紹介して	⑲ 学級文庫の本を購入した。出張図書館に新刊図書やお薦め本を置き、気軽に借りることのできる雰囲気作りに努めた。		
			⑳ 授業での図書館利用を増やしたり、作家やジャンル別の企画展を実施したりすることで、来館者を増やしていく。	⑳ 文化祭でのお薦め本のポスター展などを実施したり、本の福袋を作ったりすることで、生徒が興味関心を持つことができるように工夫した。		
㉑ 教科・科目と連携して推薦本を紹介し、さまざまなジャンルの本に興味・関心を持たせ、貸出冊数の増加につなげていく。	㉑ 教科から要望のあった本や生徒からのリクエスト本をできる限り購入した。読書感想文コンクールの課題図書や各種文学賞の受賞図書などの新着図書の紹介をし					
図書課 国語科	㉒ 各種コンクールの案内を周知し、授業や部活動で作品を創作する時間を取るようにする。	㉒ 各種コンクールのポスターを教室に掲示し、図書委員会での案内を行った。教科の課題とし、創作の時間を設けた。				

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
			評価指標と活動計画	評価		
活力ある部活動と学校をリードする生徒の育成	⑤活力ある部活動と学校をリードする生徒の育成	特別活動課	評価指標 ① 自主的にボランティア活動を行った生徒が、全校生徒の60%以上を目指す。 (H30. 48. 9%)	評価指標の達成度 ① とくしまマラソン、名高パトロール、地域の保育園の行事、石井町ボランティアフェスティバル、施設等への演奏会・作品展示などボランティア活動の内容は多岐にわたったが、今年度の参加人数は全校生徒の52. 8%であった。	総合評価 (評定) B	部活動では、芸術科を中心に全国レベルの大会で優秀な成績を収めている。芸術科は大学の教授や有名な方の指導を直接受けることができるので、生徒の成長に大いに期待できる。次年度もさらなる飛躍を期待する。部活動の入部率を増加させ、部活動の活性化を図ってほしい。
		特別活動課	活動計画 ① 全校生に趣旨の徹底をはかるとともに自発的な取り組みを推進する。	活動計画の実施状況 ① ホームルームや掲示において情報や趣旨を発信したことで、ボランティアに対する認知度は高かった。また今年度のみらいフェスタin石井のボランティアの申込者が30人を超えるなど、地元のイベント運営に意欲的に参加する生徒数が大幅に増加した。		
	芸術科	評価指標 ② 美術や書道作品の校内展示を通して、生徒の豊かな感性の伸長を図り、情操教育を展開する。	評価指標の達成度 ② 校内に美術・書道作品を展示することにより、来校者や生徒たちに、芸術科生徒の日頃の学習活動や、生徒の持つ豊かな感性を発信できた。	(評定) A	常に生徒の持つ豊かな感性や、作品が放つエネルギーを発信するように心掛け、昨年度以上の展示替えができた。	
	芸術科	活動計画 ② 県内唯一の芸術科を持つ学校としてその有利性を発揮し、美術・書道の常設展示を行い、それぞれ学期に1回以上展示替えを行う。(H30 美術・書道併せて12回)	活動計画の実施状況 ② 正面玄関や廊下などの壁面に美術や書道作品を常設展示した。本年度は美術・書道あわせて23回の展示替えを行った。美術においては専攻別の作品展示を行うなど、芸術への興味関心を待たせる工夫をした。	(所見)		
	特別活動課	評価指標 ③ 全国大会に6名以上、四国大会に20名以上の出場を目標とする。 (H30. 全国5名、四国31名)	評価指標の達成度 ③ 全国大会に13名、四国大会に30名が出場し、目標を大きく上回ることができた。	(評定) A		
		④ 高文祭では全国大会に3部以上、各種大会・コンクールについては全国規模の入賞・入選数65を目標とする。(H30. 高文祭3部門、入選66)	④ 高文祭においては、美術・書道・吟詠剣詩舞・写真が全国へ。全国規模の入賞も書道を中心に入選入賞数は76となった。			
	特別活動課	活動計画 ③ 体育部の活動者数を増やし、大会参加や活動の機会を増し、粘り強く指導する。	活動計画の実施状況 ③ 体育部の入部率は前年とほぼ変わらず33%であるが、四国大会に29名が出場するなど、成果が出ている。	(所見)	○次年度は、生徒数が更に減ってしまうが、それぞれの部活動で、活発に魅力を発信し、活性化を図る。	
		④ 文化部の活動者数を増やし、大会参加や活動の機会を増し、粘り強く指導する。	④ 芸術科の生徒を中心に、多くの生徒が県総文祭に参加した。写真部の全国総文祭出品や箏曲部の県総文祭最優秀賞受賞など、普通科の生徒も文化部で活躍を見せた。	(所見) 体育部・文化部ともに、活動内容などを発信し、活性化、成績向上を目指したい。		

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
			評価指標と活動計画	評価			
活力ある部活動と学校をリードする生徒の育成	⑤活力ある部活動と学校をリードする生徒の育成	国際課 英語科	評価指標	⑤ 外国の文化・慣習等に興味・関心を持ち、国際交流への意識を高めた生徒の割合を65%以上にする。(H30:65.0%)	評価指標の達成度	(評定) A (所見) 台湾やドイツからの訪問団を受け入れ、直接海外の高校生と触れあう機会を持つことができた。ドイツ姉妹校の受け入れでは、14名のご家庭に1週間ホストファミリーを引き受けていただいた。また、ALTによる授業や課外での英会話講座、国際理解教育講演会を通して、国際理解を深めた。	
			⑥ 生徒の国際理解を深めるために、全校生徒対象の講演会や外国からの訪問団受入を1回以上開催する。(H30:1回)	⑥ 台湾やドイツの訪問団受入と国際理解教育公演会を行った。全校生徒対象の行事を3回開催したので、目標は達成できた。			
			⑦ 海外留学やホームステイ、国内での英語を使った交流体験など、国際交流事業への参加者を10名以上にする。(H30:9名)	⑦ オランダ研修旅行1名、弁論大会1名、四国大学との連携セミナー2名、徳島グローバルキャンプ1名、計5名の参加があった。ドイツ研修旅行は希望者が13名あったが、コロナウィルスの影響を配慮して中止となったため、目標を達成できなかった。			
		国際課 英語科	評価計画	⑤ ALTの授業を全クラス最低2週間に1回は行う。	活動計画の実施状況		⑤ 学期ごとにチームティーチングの計画を立て、急な出張の際にも振替を行った。特別時間割を除くと目標は達成された。
		⑥ 外国の方や海外経験の豊富な日本人を招き講演会を実施する。台湾やドイツの訪問団を受け入れ、授業やホームステイを通して交流する。	⑥ 台湾から32名、ドイツから14名の高校生が来校し、授業やホームステイを通して交流した。また、遊合芸能チングドゥルを講師に迎え、人権教育課と連携し、国際理解教育講演会を実施した。				
		⑦ 国際交流の募集案内を全校生徒に積極的に行うとともに、生徒の進路に応じて個別に参加を働きかける。	⑦ 募集案内を教室掲示するだけでなく、英語の授業で積極的に参加を呼びかけた。また、外国語や国際の分野に進学を希望している生徒には個別に働きかけた。				

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
			評価指標と活動計画	評価			
地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	⑥地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	総務課	<p>評価指標</p> <p>① 保護者と生徒、教職員が協力して校外清掃奉仕活動や、校内美化活動を行う。</p> <p>② 文化祭・体育祭に、PTA役員を中心として多くの保護者が参加し、教職員と連携して生徒の諸活動を支える。</p> <p>③ 校外における各種研修、大学訪問研修に多くの保護者が参加し、諸問題について理解を深める。</p> <p>④ 全会員にPTAの活動についての報告・広報を年間5回以上する。</p> <p>⑤ 藤花同窓会と学校が連携して充実した同窓会活動を実施する。藤花同窓会の活動について、在校生や地域に周知・広報し、総会・懇親会に多くの会員が参加する。(H30年度総会23名・懇親会103名参加)</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① PTA役員、総務課員が協力して清掃奉仕活動に当たった。</p> <p>② 事前に役員会を開催し役割分担を徹底し、多数のPTA役員・会員が名高祭に参加して、円滑な運営のサポートができた。</p> <p>③ 県高P連、生指協等関連の各種研修会に役員を中心に参加し理解を深めることができたが、平日が多く参加できる人は偏っていた。</p> <p>④ 行事の様子等については随時HP上に掲載し、PTA通信や校誌でも報告した。</p> <p>⑤ 同窓会の役員会・総会等で在校生の諸活動についてご案内・報告をした。また全国大会への生徒出場に対する激励金を頂いた。(令和元年度総会27名・懇親会97名参加)</p>	<p>総合評価 (評価) B</p> <p>(所見) PTA・同窓会ともに、会員・役員を中心として、学校や教職員と結束して、地域と連携しながら、活動に取り組んでいただけた。ただ平日は参加できない人が多く参加者がいない行事もあった。多くの参加者を望む場合は、日程について考慮すべきと感じた。</p>	<p>本年度の1年生の総合的な探究の時間への講師としての参加のよう、地域の同窓生や元PTAの方々の中には、機会があれば学校行事に協力してもよいと考えている方もいる。地域社会の活用を来年度はコミュニティースクール設置という形で積極的に進めてほしい。</p>	<p>○HPで行事ごとに告知や報告を必ずする。 ○校外研修だけでなく、校内での各種講演会に保護者に参加いただけるよう、各課と連携してご案内を徹底する。 ○地域社会と連携し、開かれた学校づくりの土台となるPTA・同窓会活動となるよう、行事や事業を精選して取り組んでいきたい。</p>
		総務課	<p>活動計画</p> <p>① 石井駅周辺の通学路、および校内での美化活動に、参加を呼びかける。(H30年度参加者2名)</p> <p>② 文化祭での模擬店出店、体育祭での麦茶・スポーツドリンク提供について、全保護者に参加を呼びかける。(H29年度模擬店・麦茶提供延べ55名参加)</p> <p>③ 県高P連、生指協連絡協議会等の総会・研修会等への参加について適宜ご案内する。また、大学訪問を実施し、進路について理解を深める。(H30年度校外研修30名参加、大学訪問は悪天候で実施せず)</p> <p>④ 5月の総会で事業報告・事業計画を提案する。「PTA通信」を発行し、年間の活動について全会員に報告をする。HPに行事への参加案内や報告を掲載する。</p> <p>⑤ 10月の藤花同窓会総会・懇親会では役員および卒業30周年の会員を中心に参加を広く呼びかける。諸活動の円滑な実施のため、役員会を年3回開催する。同窓会キャラクターの「くおんちゃん」クリアファイルを制作し、広く配布して同窓会のシンボルとして周知を図る。卒業式前日に同窓会入会式を実施し、各クラス理事に委嘱状を手渡し、同窓会会員となる自覚を促す。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>① 二学期末にPTA役員が校舎外清掃奉仕活動に参加した。(参加者3名)</p> <p>② 案内で周知徹底した結果、多数の保護者が文化祭バザーや体育祭のお茶提供に参加してくれた。(模擬店・麦茶提供 延べ53名参加)</p> <p>③ 岡山方面の大学視察を計画していたが、平日の計画では参加希望が大変少なく、県外研修は行わなかった。</p> <p>④ 総会の案内は全会員に配布した。前年度の事業報告や本年度の活動計画は5月の総会で行った。またHPや校誌でも活動の報告をしている。</p> <p>⑤ 10月の総会、懇親会は第40回卒業生と合同開催し97名の参加を得た。全国大会への激励金や演奏会・展示会(5会場)へのご支援をいただいた。また、同窓会入会式では11名のクラス理事に対して委嘱状を手渡し、同窓会入会の自覚を促した。</p>			

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策		
			評価指標と活動計画	評価				
地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	⑥地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	教務課	評価指標	⑥ 「入学案内」について、本校教育の内容をわかりやすくまとめ、説明会等の資料として積極的に活用する。	評価指標の達成度	⑥ 例年以上に全体のイメージやレイアウトに細心の注意を払いながら作成した。各中学校での説明会、本校実施の体験入学や説明会等、あらゆる機会を通じて配付し、本校のPRに役立てた。	総合評価 (評定) A (所見) 本校の特色や魅力をあらゆる機会を通して積極的に発信していった。今後も今年度の反省を踏まえ、次年度に活かしていきたい。	
			活動計画	⑦ 体験入学の参加生徒や保護者に、本校の教育内容や特色をわかりやすく説明する。H30体験入学アンケート結果(よい以上-生徒92%, 教員・保護者95%)を上昇させる。	活動計画の実施状況	⑦ 生徒主体のオリエンテーションや、教師主導の体験授業及び部活動見学を実施し、本校の魅力を伝えることができた。(アンケート結果:普通以上・・・生徒100%, 教員・保護者98% よい以上・・・生徒92%, 教員・保護者84%)		
		教務課	活動計画	⑥ 「入学案内」の構成や情報内容を改良するとともに、最新の情報に更新していく。また、依頼のある中学校には配布する。	活動計画の実施状況	⑥ 写真や資料を新しくするのはもちろん、在校生や卒業生の声を可能な限り取り上げた。また全体のイメージやレイアウトにも細心の注意を払いながら作成した。各中学校での説明会意外にも、依頼のあったすべての中学校に配付した。	総合評価 (評定) B (所見) 学校生活や校外活動の記録をしっかりと撮影し、web状にあげる習慣を共通認識として持てるようにする必要	
			評価指標	⑦ 学校説明会、体験入学、HP等を通じて、本校教育の特色など本校に関する情報を提供し、中学生に進路選択に活用してもらおう。体験入学の際にアンケートを実施する。	活動計画の実施状況	⑦ 中学校での学校説明会や本校での体験入学等の機会に、「入学案内」や写真・映像などを用いて本校の特徴や魅力を積極的に紹介した。HPにおいても様々な情報を発信していった。		
		情報視聴覚課	情報視聴覚課	評価指標	⑧ 学校行事や部活動等の様々な取組みをホームページで頻度多く掲載する。月に12回以上の更新を行う。(昨年度最少更新回数10回)	評価指標の達成度	⑧ 学校行事の少ない時期に目標を達成できなかったが、殆どの月で更新回数が上回ることができた。(最少更新回数6回、未達成月は3ヶ月)	総合評価 (評定) A (所見) 本年度より「芸術科サポーター制度」が導入され、登録している中学生に講座をとおして芸術科の魅力を発信できた。芸術科部活動見学会の参加者も前年度より54名増加した。
				活動計画	⑧ 各課に更新作業の出来る教員を増やし、学校行事や部活動の取り組み等を紹介する。	活動計画の実施状況	⑧ 各課、部活動で更新作業ができるように、情報科員が個々に対応を行った。部活動の更新については更なる研修が必要である。	
	芸術科	芸術科	評価指標	⑨ 校外での展覧会・音楽会等の広報活動(ホームページ・ポスター・新聞)を迅速に行い、展覧会・演奏会に在校生や多くの観客を動員する。	評価指標の達成度	⑨ 校外での定期演奏会・巡回展・美術展・書道展などを、ホームページ・ポスター・新聞等で広報した。本年度は「芸術科サポーター制度」に登録している中学生も多数来場し、作品鑑賞することができた。	総合評価 (評定) A (所見) 本年度より「芸術科サポーター制度」が導入され、登録している中学生に講座をとおして芸術科の魅力を発信できた。芸術科部活動見学会の参加者も前年度より54名増加した。	
			活動計画	⑩ 県内唯一の芸術科を有する学校として、地域社会と連携し生徒の技術力をいかした芸術・文化の発信に寄与する。	活動計画の実施状況	⑩ 「芸術科サポーター制度」をいかした講座を実施した。生徒の持つ技術力を発揮できる良い機会となった。		
	芸術科	芸術科	活動計画	⑨ 地域社会での文化祭、展覧会、文化行事などに年間7回以上参加する。	活動計画の実施状況	⑨ 地域での文化祭や展覧会、文化行事等に年間18回参加した。	総合評価 (評定) A (所見) 本年度より「芸術科サポーター制度」が導入され、登録している中学生に講座をとおして芸術科の魅力を発信できた。芸術科部活動見学会の参加者も前年度より54名増加した。	
			活動計画	⑩ 地域社会と連携し、校内・校外で展覧会・演奏会を年間5回以上、小・中学生に向けた体験学習を年間6回以上実施する。芸術科部活動見学会を実施する(参加者H30 171名)。	活動計画の実施状況	⑩ 校外で展覧会・演奏会を年間15回、中学生に向けた体験学習を年間6回、「芸術サポーター制度」をいかした講座を各コース平均4.7回実施した。第2回芸術科部活動見学会を実施した(参加者R1 225名)。		

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策				
			評価指標と活動計画	評価						
地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	⑥地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	生徒指導課	<table border="1"> <tr><th>評価指標</th></tr> <tr><td>⑪ 「名高パトロール隊」を編成し、地域社会や警察と連携して地域の安全のため、パトロールや挨拶運動、美化活動を年30回以上実施する。(H30, 33回)</td></tr> </table>	評価指標	⑪ 「名高パトロール隊」を編成し、地域社会や警察と連携して地域の安全のため、パトロールや挨拶運動、美化活動を年30回以上実施する。(H30, 33回)	<table border="1"> <tr><th>評価指標の達成度</th></tr> <tr><td>⑪ 全ての運動部員と生徒会役員が「名高パトロール隊」に所属し、挨拶運動や町内のパトロールなど32回、意欲的に活動した。</td></tr> </table>	評価指標の達成度	⑪ 全ての運動部員と生徒会役員が「名高パトロール隊」に所属し、挨拶運動や町内のパトロールなど32回、意欲的に活動した。	総合評価 (評定) A (所見) 交通安全キャンペーンの実施や運動部員がキャップをかぶり、学校周辺のランニングを行いながら名高パトロールをするなど、地域の安全に貢献することができた。また「無事カエル」のキャンペーンは交通安全国民運動中央大会で表彰された。生徒に社会の一員である自覚を育てるとともに、地元から信頼される学校となるためにも活動を継続・発展させていきたい。	長年の交通安全運動キャンペーンや名高パトロール隊など、さらに活動を充実させ、地域との連携を密にした取り組みを推進してほしい。 ○県内でも名西高校独自の取組ともいえる名高パトロール隊の活動をさらに充実させ、地域から信頼される学校にしていきたい。 ○30年継続して作成されている「無事カエル」の意義を浸透させ、製作に対しての意識を向上させたい。
		評価指標								
		⑪ 「名高パトロール隊」を編成し、地域社会や警察と連携して地域の安全のため、パトロールや挨拶運動、美化活動を年30回以上実施する。(H30, 33回)								
		評価指標の達成度								
⑪ 全ての運動部員と生徒会役員が「名高パトロール隊」に所属し、挨拶運動や町内のパトロールなど32回、意欲的に活動した。										
生徒指導課 家庭科	<table border="1"> <tr><th>活動計画</th></tr> <tr><td>⑫ 交通安全キャンペーンを年2回以上実施し、交通マナーの向上と地域の交通安全に貢献する。(H30, 2回)</td></tr> </table>	活動計画	⑫ 交通安全キャンペーンを年2回以上実施し、交通マナーの向上と地域の交通安全に貢献する。(H30, 2回)	<table border="1"> <tr><th>活動計画の実施状況</th></tr> <tr><td>⑫ 春と秋の全国交通安全運動期間に徳島名西署と連携して、街頭キャンペーンを実施した。秋の運動では家庭クラブが作成したマスコット(無事カエル)をドライバーに配布する街頭キャンペーンを実施した。</td></tr> </table>	活動計画の実施状況	⑫ 春と秋の全国交通安全運動期間に徳島名西署と連携して、街頭キャンペーンを実施した。秋の運動では家庭クラブが作成したマスコット(無事カエル)をドライバーに配布する街頭キャンペーンを実施した。				
活動計画										
⑫ 交通安全キャンペーンを年2回以上実施し、交通マナーの向上と地域の交通安全に貢献する。(H30, 2回)										
活動計画の実施状況										
⑫ 春と秋の全国交通安全運動期間に徳島名西署と連携して、街頭キャンペーンを実施した。秋の運動では家庭クラブが作成したマスコット(無事カエル)をドライバーに配布する街頭キャンペーンを実施した。										
生徒指導課	<table border="1"> <tr><th>活動計画</th></tr> <tr><td>⑪ 運動部員を中心とした「名高パトロール隊」を編成し、地域社会や警察と連携して、清掃活動や防犯キャンペーン、挨拶運動を適宜実施する。</td></tr> </table>	活動計画	⑪ 運動部員を中心とした「名高パトロール隊」を編成し、地域社会や警察と連携して、清掃活動や防犯キャンペーン、挨拶運動を適宜実施する。	<table border="1"> <tr><th>活動計画の実施状況</th></tr> <tr><td>⑪ 徳島名西署や青少年育成センターと連携を図りながら、清掃活動や部活動時のパトロール、校門前での挨拶運動など様々な取組を実施した。</td></tr> </table>	活動計画の実施状況	⑪ 徳島名西署や青少年育成センターと連携を図りながら、清掃活動や部活動時のパトロール、校門前での挨拶運動など様々な取組を実施した。				
活動計画										
⑪ 運動部員を中心とした「名高パトロール隊」を編成し、地域社会や警察と連携して、清掃活動や防犯キャンペーン、挨拶運動を適宜実施する。										
活動計画の実施状況										
⑪ 徳島名西署や青少年育成センターと連携を図りながら、清掃活動や部活動時のパトロール、校門前での挨拶運動など様々な取組を実施した。										
生徒指導課 家庭科	<table border="1"> <tr><th>活動計画</th></tr> <tr><td>⑫ 徳島名西署と連携を図り、交通委員会がキャンペーンを実施する。また秋の交通安全キャンペーンでは学校家庭クラブが製作した「無事カエル」のマスコットを配布する。</td></tr> </table>	活動計画	⑫ 徳島名西署と連携を図り、交通委員会がキャンペーンを実施する。また秋の交通安全キャンペーンでは学校家庭クラブが製作した「無事カエル」のマスコットを配布する。	<table border="1"> <tr><th>活動計画の実施状況</th></tr> <tr><td>⑫ 徳島名西署や交通安全協会と連携を図り、秋の交通安全運動キャンペーンに参加し、家庭クラブが手作りで作成した「無事カエル」のマスコット人形を交通安全啓発のパフレットと一緒に配布した。</td></tr> </table>	活動計画の実施状況	⑫ 徳島名西署や交通安全協会と連携を図り、秋の交通安全運動キャンペーンに参加し、家庭クラブが手作りで作成した「無事カエル」のマスコット人形を交通安全啓発のパフレットと一緒に配布した。				
活動計画										
⑫ 徳島名西署と連携を図り、交通委員会がキャンペーンを実施する。また秋の交通安全キャンペーンでは学校家庭クラブが製作した「無事カエル」のマスコットを配布する。										
活動計画の実施状況										
⑫ 徳島名西署や交通安全協会と連携を図り、秋の交通安全運動キャンペーンに参加し、家庭クラブが手作りで作成した「無事カエル」のマスコット人形を交通安全啓発のパフレットと一緒に配布した。										

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
			評価指標と活動計画	評価			
文化芸術活動における地域への積極的な創造発信	⑦文化芸術活動における地域への積極的な創造発信	情報視聴覚課	評価指標 ① 各行事の結果等については、実施日から3日以内の更新を心掛ける。生徒の活動の様子等の紹介を月3回程度を目標に更新する。(平成30年度最少月更新数1回)	評価指標の達成度 ① 3日以内の掲載についてはおおむね達成できたが、日々の生徒の活動の様子についてはまだ回数が少ない。担当者を決め、更新回数を増やす工夫が必要絵ある。	総合評価 (評定) B	文化芸術の活動をホームページなどに掲載する回数も大幅に増加している。地域とのつながりから、さらに創造的な発信ができると思われるので、今後に大いに期待したい。	
		情報視聴覚課	活動計画 ① 行事の記録を確実にを行い、タイムラグなく地域に発信を行う。そのために情報発信に関する研修を行う。	活動計画の実施状況 ① 行事記録の担当が責任を持って撮影し、WEB上に記事を掲載できるように更なる研修を行う必要がある。			(所見) 記録はとれているので、誰がweb上にあげるかを明確にする必要がある。
		芸術科	評価指標 ② リーディングハイスクールの取り組みを通して、音楽・美術・書道の技術力を活かした活動を積極的に校外・地域へ発信する。(H30 15回) 異校種間交流を音楽・美術・書道で年1回以上実施する。 ③ 芸術科の各行事や取り組みを、ホームページやさまざまな機会を通じて効果的に案内・広報を行う。	評価指標の達成度 ② リーディングハイスクールの取り組みや活動内容を校外に積極的に発信できた(R1 27回)。また、芸術科会議を定期的開催し、行事等における各コース間での共通理解や協力体制を強化した。異校種間交流を音楽・美術・書道で19回実施した。 ③ 芸術科の各行事や取り組みを、ホームページや新聞、地元広報誌やCATVなどを通じて効果的に地域に案内・広報できた。	総合評価 (評定) A		(所見) 地域における芸術科の活動は、継続的に実施できているものや新たに交流活動が展開されたものなど、着実に活動の幅が広がってきている。芸術科のHP掲載回数も前年度より大幅に増加した。
			芸術科	活動計画 ② 校内での演奏や作品展示をはじめ、校外での演奏会や作品展を行い生徒の持つ芸術力をアピールする。異校種間での作品交流等を実施し芸術科の持つ魅力を発信する。 ③ 芸術科の各行事や取り組みを、音楽・美術・書道それぞれが迅速にホームページに更新し、積極的に地域に案内・広報を行う。(H30 芸術科 48回HP更新)			

重点課題	重点目標	主担当	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
			評価指標と活動計画	評価	総合評価		
防災・安全教育の徹底と環境教育の推進	⑧防災・安全教育の徹底と環境教育の推進	環境教育課	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	南海トラフ地震への関心だけでなく、大雨や台風などの異常気象に対する備えも必要である。様々な災害を想定した訓練の充実を図ってほしい。	○災害時に備え、防災教育の充実を図る。また、防災クラブの活動内容について検討し、積極的な活動につなげたい。
			① 避難訓練を年2回実施する。	① 5月、12月の2回実施できた。	(所見) 防災教育は今後、各教科や学校行事と関連を深めて更に活発に行っていかなければならない。防災マニュアルの見直しが必至である。		
			② 外部機関と連携した防災教育を実施する。	② 石井消防署と連携して消火器体験や、シューターによる避難体験を実施。			
			③ 防災クラブの活動を十分に行う。	③ 災害時用の簡易トイレを組み立てたり、非常食を調理・試食した活動を、文化祭で展示した。			
			活動計画	活動計画の実施状況			
			① 緊急時に適切な行動がとれるようにするため、地震・火災を想定した避難訓練を実施する。	① 5月に地震を想定、12月には火災を想定した避難訓練を実施した。			
	② 安全確保に対する意識を高めるため、防災教育を充実させる。	② 文化祭における防災展示で意識高揚を図った。					
	③ 防災クラブの活動として、1・2学期末に防災活動を積極的に行う。	③ 1学期末に防災クラブの活動として簡易トイレの組み立てや、非常食の調理をし、2学期当初に模造紙を用いて発表した。					
	環境教育課	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	○エコ活動の指標として、電気、水道の利用状況グラフや、ゴミの分別チェック表の活用ができるよう、活動をしていきたいと思っている。		
	④ ゴミの分別をすることがECOにつながることを自覚させる。	④ 集会時に呼びかけを行った。	(所見) 生徒数が減り、清掃分担の負担が増す中、生徒・教員共に積極的に校舎内外の美化に取り組むことができた。				
	⑤ 環境を整え学習効果をあげるとともに、美化を推進する。	⑤ 普段の清掃を生徒・教員ともに積極的に行ってくれている。					
	⑥ 地域の美化に貢献する気持ちを育て、奉仕の精神を養う。	⑥ 7月と12月に実施している校外清掃奉仕活動で、地域の美化に貢献できた。					
活動計画	活動計画の実施状況						
④ ゴミ分別チェックを実施する。	④ 大掃除のときにチェックを実施した。						
⑤ 月に1回大掃除を実施する。	⑤ 月1回以上の大掃除を実施できた。						
⑥ 1, 2学期末に校外奉仕活動を積極的に行う。	⑥ 7月と12月に校外清掃奉仕活動を実施し、通学路や最寄り駅の清掃に、誠意を持って取り組むことができた。						